

ごあいさつ



我が国には、B型肝炎ウイルス、C型肝炎ウイルスに持続感染している方が約300万人から370万人程度いると推定されています。B型及びC型のウイルス性肝炎は、感染していても、自覚症状が無いことが多く、適切な治療がなされないまま、慢性化し、肝硬変や肝がんなどの重篤な疾病に進行することが懸念されています。

本県の肝がんによる死亡者数は近年減少傾向にありますが、毎年、約1,600人の方が亡くなっており、肝がんによる死亡率は、全国と比べ、依然として高い状況にあります。

県では、これまで、肝疾患医療体制の整備、保健所や医療機関での肝炎ウイルスの無料検査、肝炎治療医療費の助成などの肝炎対策に総合的に取り組んできました。近年、ウイルス性肝炎の治療は著しく進展し、適切な時期に適切な医療を受けることができれば、病状の進行を防ぎ、治癒することができるようになってきました。

一方で、肝炎ウイルスに感染しているものの自覚のない方や自覚していても適切な医療を受けていない方も多いと推定されること、肝炎ウイルス検査を受検する必要性に関する認識や感染経路等についての理解が十分ではないといった課題が残されています。

このような県の肝炎を取り巻く現状と課題を踏まえて、平成30年度から6か年の肝炎対策の基本的方向性を示した「福岡県肝炎対策推進計画」を策定しました。

県民が肝炎に関する理解を深め、関係者の協力の下、肝炎患者の方などが安心して治療を受け、生活できる環境づくりに取り組むことができるよう「肝炎ウイルス検査の促進」、「適切な肝炎医療の提供」、「肝炎に関する正しい知識の更なる普及啓発」、「肝炎患者及び家族等に対する相談支援や情報提供の充実」を基本的な考え方とし、肝炎対策を推進してまいります。

県民の皆さまの一層のご理解とご協力をお願いいたします。

この計画の策定にあたり、幅広い観点から大変熱心にご議論いただきました「福岡県肝炎対策協議会」の委員の皆さまをはじめ、ご協力いただきました関係者の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

平成30年3月

福岡県知事 小川 洋